

令和3年度 項目別の自己評価表

1. 学校の教育目標

キャリア教育・職業教育と人間性の涵養に努め、一人一人の自立を目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

自立した人間性を育成し意識の向上につとめ、自らの考えを提案できる機会を作り自主性を高められるよう、取り組みを行う。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 創学の精神「自立」と「清く・正しく・美しく」の教育理念は実行されているか	4	3	2	1
・ 職業とキャリアを重視した教育がなされているか	4	3	2	1
・ 専修学校が社会に於ける役割を認識しニーズに応える学校づくりに努めているか	4	3	2	1
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
・ 専門教科に重点を置き、併せて一般教科・特別教育活動をして専門業界の即戦力となる人材の育成に努めているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果として、在学生アンケート結果から、学生が意欲的に授業に取り組み、目標を持って学校生活を送っていることが挙げられる。将来のキャリア形成を早い時期から意識して、計画的に資格取得や課題細目に取り組んでいることは、職業とキャリアを重視した教育と創学の精神である「自立」が徹底されていると分析する。

課題としては、学校の理念や将来構想などが学生・保護者等へ周知されていないことが挙げられる。新校舎建設の計画など説明が徹底できなかった点があり、一部から不安に思われる声が寄せられたことは、来年度に向けて解決すべき課題である。

② 今後の改善方策

オンライン化が進んだ状況のもと、学校側から保護者へ、学生に書類を配布するだけでなく、直接お知らせができるマチコミメールなどのツールを活用していく。お知らせを定期的に配信することで、学校の方針や教育活動を広く保護者に周知し、保護者理解を深めていくように努める。

(2) 学校運営

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 校務分掌役割の確認と責任の遂行はなされているか	4	3	2	1
・ 事業計画を綿密に立て、共通理解で運営されているか	4	3	2	1
・ 運営組織や意思決定機能は毎朝の職員会議等で諮られて納得して十分機能しているか	4	3	2	1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2	1

・ 業界や地域社会と密接な信頼関係が確立されているか	4	3	2	1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては、昨年度に引き続き教育活動に関する情報公開が挙げられる。保護者に向けた情報公開では不足した部分があったものの、それ以外の入学希望者、地域住民、関係企業などにはSNSなどを広く活用して情報公開を行った。特にこおりやま産業博では、主催である郡山商工会議所の協力を経て、ファッションショーの動画を配信する、今までにない試みを行い、サイト内で興味・関心を惹いたコンテンツに選ばれるなどの効果があった。

課題は校務分掌の遂行である。毎年課題として挙がっているものの、なかなか解消に至らない要因としては、明確化できていない部分があるためだと思われる。

② 今後の改善方策

改善の方法としては、校務分掌のカテゴリを細分化し、係を明確化することによって教員がそれぞれ係を自認し校務に取り組みやすいように整備する。また、外部からの連絡や、上層部からの指示も、校務分掌で割り振られている担当教員に適切に配することで、更なる自認の向上と校務分掌の効率的な遂行に努める。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
・ 業界のニーズに十分応えるレベルに到達する教育と時間の配分が明確にされているか	4	3	2	1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携事業）は体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
・ 授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
・ 人材育成目標達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては、関連分野における実践的な職業教育が行われたことが挙げられる。ふくしまアロハプロジェクトでは、企業からの依頼を学生一人一人が深く分析し、顧客のニーズに沿ったデザイン提案、サンプル作成が行われた。また、コンペでは自分たちで制作したサンプルがいかにか魅力的であるか、よく分析されたプレゼンが行われ、将来に役立つ経験となった。

課題としては、人材育成の目標を達成するための要件を備えた教員の確保が挙げられる。策定

されたカリキュラムに沿った授業を行うことができる教員は備えているものの、現在以上の上進を目指すにはやや不足した部分が見受けられた。

② 今後の改善方策

改善方策としては、十分な実務経験を備えた教員・講師の確保が挙げられる。カリキュラムの目標を更に明確化し、達成することができる教員の要件を策定、また教職員間で共有し、適時教員と講師を配置して更なる授業の充実を試みる。研修や教員の指導力育成は十分取組まれているが、来年度は更に備えるべきスキルを審議したうえで、研修に臨み、教員一人一人の質の向上を図る。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
・ 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍や卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 成果と課題

まず成果として、卒業生の社会的な活躍の活用がある。数年前から計画のある、卒業生の就職先とどうしてそのキャリア形成に至ったかを記載したお仕事図鑑を発行した。また、お仕事図鑑の冊子は在校生、入学希望者にも広く配布し、キャリア形成の一助とした。

課題としては、昨年度同様に資格取得率の低下が挙げられる。ファッション色彩検定、技術認定試験は高い合格率だったが、それ以外の検定ではやや数字の落ち込みが見受けられる。実際の受験者と合格者の人数からも明確になっているが、着目点としてはアンケート結果がある。保護者アンケートの結果では意欲的に資格取得に臨んでいるとの意見が多かったが、在学生アンケートでは積極的に資格取得に取り組めたと回答した人数は全体の4割に留まっている。

② 今後の改善方策

改善に向けて、保護者と在学生のアンケート結果の乖離を分析した。保護者は本人が検定試験を受験したこと自体を評価しているのに対し、学生本人は受験したことではなく合格しなかったことに比重を置いているのではないかと結果が出た。そのため、学生本人の資格取得に向けた意欲は現状通り向上に取り組むが、合格者の増加に向け、検定対策問題の出題や、オンラインでの過去問の復習ができる体制を整え、通学時などの隙間時間を利用して検定勉強ができる環境づくりを試みる。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 進路・就職に関する指導・支援は行われているか	4	3	2	1
・ 学生相談に関する体制が整備されているか	4	3	2	1

・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 保護者会と適切に連携しているか	4	3	2	1
・ 卒業生へのニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
・ 中学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては昨年度同様、進路・就職に関する指導・支援の充実が挙げられる。服飾科からプロフェッショナル科への編入、プロフェッショナル科から研究科への進学などは昨年度より増加している。

課題としては、学生相談に関する体制の整備が挙げられている。就職希望の学生が進路指導担当教員と連携がとれていないなどの事例があった。

② 今後の改善方策

学生相談に関する体制の整備が課題であるため、校務分掌のうち、就職相談窓口、進路相談窓口、学生生活相談窓口として担当教員を広く周知し、相談しやすい環境づくりに努める。また担任教員と進路指導担当教員が広く情報を共有し、学生本人の臨む結果につながりやすいよう連携していく。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては施設・設備の充実がある。オンライン授業に対して意欲的に取り組み、検定対策などにも大いに活用した。

ただし課題としても施設・設備が挙げられている。新校舎建設に伴い、12月末に仮校舎への移転を行ったが、講義室が限られているため教室の確保が難しいなどの問題があった。

② 今後の改善方策

今後の改善に向けて、教員間で講義室の使用がわかるようにネットツールを活用して情報共有を行っていく。また、対面が主であった授業もオンラインで対応できるものはどんどんオンラインに切り替え、講義室が使えないデメリットを逆に活用していくよう試みる。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
------	---------------------------	--	--	--

・ 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が積極的に行われているか	4	3	2	1
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
・ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報や教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては、例年に引き続き資料請求の増加がある。リクルートスタディサプリの活用、学校訪問、SNSなどでの情報発信など、様々な方法を十分に活用した結果、資料請求は昨年度に比較して151%の伸び率となった。

課題としては、来校者、入学者が伸びず、横ばい状態であることが挙げられている。

② 今後の改善方策

今後の改善として、まず資料請求から来校への結びつきの強化が挙げられた。学校パンフレット、オープンキャンパス案内だけではなく、学生生活が身近に感じられるようなコンテンツを増やし、来校意欲につなげる。

また、来校イベントの分け方も方策として策定した。現在のオープンキャンパスでは、学校説明と体験を抱き合わせで行っているが、学校に興味・関心を持った人向けの軽めの「体験イベント」、分野選択が終わり詳しく内容を知りたい人向けの「学校説明・個人相談」として別日に開催することで複数回来校を促し、入学決定に結び付ける。

県外からの来校者・入学者の増加も図っていく。福島県内以外からも来校するパターンが増えてきており、「和裁を学びたいので東京方面と検討中」、「和裁と洋裁どちらも決めかねているため」、などの参加者の意見があった。本校にしかない特色・魅力を掘り下げ、県内遠方や県外からの来校を促すとともに、不動産情報や周辺の地理など住環境などのサポートを強化する。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 成果と課題

事業内容等も含めた財務情報について最新の情報公開を行う。

② 今後の改善方策

解り易い財務の情報公開を行い、安心して入学、学修する資料とする。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行い、自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 成果と課題

自己評価等の実施を積極的に行い、改善点を明確にしていく

② 今後の改善方策

自己評価結果に基づいて、改善し最新の情報公開を行う。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 学友会のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては、中学校向けの出前講座がある。世情によって職場体験が行えなかった中学校からの依頼が増加し、公開講座が前年度よりも広く行われた。それによって中学生のキャリア形成の一助となり、地域に貢献した。

② 今後の改善方策

今後の方策としては、来年度は更に魅力的な出前講座を打ち出していくことが挙げられた。中学生にもより進路選択に興味を持ちやすい題材の選択、解りやすい授業内容、ニーズに沿った項目の設定を行っていく。

(11) 国際交流（必要に応じて）

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 留学生の受入れ・派遣に積極的に取り組んでいるか	4	3	2	1

① 成果と課題

課題として、前年度に引き続き留学生の受け入れ、また留学生としての派遣が今年度なかったことが挙げられる。

② 今後の改善方策

積極的に多言語での情報発信に取り組み、留学生としての派遣なども検討する。また、留学の目的をしっかりとって経済的にも不安なく学べる人材を受け入れる努力をする。